

伊勢のごせんぐう

平成最後の新嘗祭に
伊勢御遷宮委員会は二十一年一度斎行される神宮式年遷宮に伴う伊勢の民俗行事の保存継承を目的として活動しています。11月23日(祝)、今上天皇のご譲位に伴い天皇陛下ご自身が皇居で行う最後の新嘗祭の日にあわせ、神宮とともに生きる伊勢の民として戦争もなく平和な時代であった平成の御代に感謝を表すこととしました。平成の二度の御遷宮に伴う伊勢の民俗行事を無事に納めさせていただけた感謝を込め、次のお木曳行事を担う各町、地域の奉献団の皆様と共に御神楽奉納、特別参拝を実施しました。



内宮参集殿での記念講演会

伊勢木遣りは全国に
また、あわせて記念講演会を開催しました。ご講演いただいたのは、日頃より伊勢市の文化財保護委員などにより縁のある富山大学准教授、島添貴美子先生。民俗芸能の研究者のお立場から全国のお祭り、伝統行事等に伊勢の民俗行事「お木曳」で唄われる木遣りとは似たような唄、囃子(あいのて)があることから、伊勢から全国に波及した「伊勢系木遣り」と考え、その研究内容を一部を実際の音源・画像を交えてご紹介いただきました。一例として、北海道から日本海を南下し行き来した「北前船」といわれる物流船が物資とともに各地の伝統芸能などを持ち帰ったという説があり北海道のニシン漁に伝わる作業唄のなかに「伊勢系木遣り」を発見したお話など、たいへん興味深く拝聴。地域だけにとどまらず全国に影響力があつた伊勢の歴史を途絶えさせることなく、伝統ある民俗行事として未来へ受け継いでいくことの意義を感じさせてくれる講演会となりました。

平成感謝の神宮参拝
その後、三連休の初日でもあり夕方近くになつても参拝客が絶えない内宮参道を、伊勢の民として誇らしい思いを感じながら町の伝統を繋ぐ半被を着た約250名が揃つて進み、御垣内参拝を行いました。
次の御遷宮諸行事、お木曳まではまだ八年という期間がありますが、伊勢のまちづくり、伝統文化の継承の一環として、今後もこのように節目ごとに機会を持ち、結束しながら次の世代へ繋ぐための機運を高めていくことといたしました。



内宮参道を進む各町(団)代表者

平成感謝行事

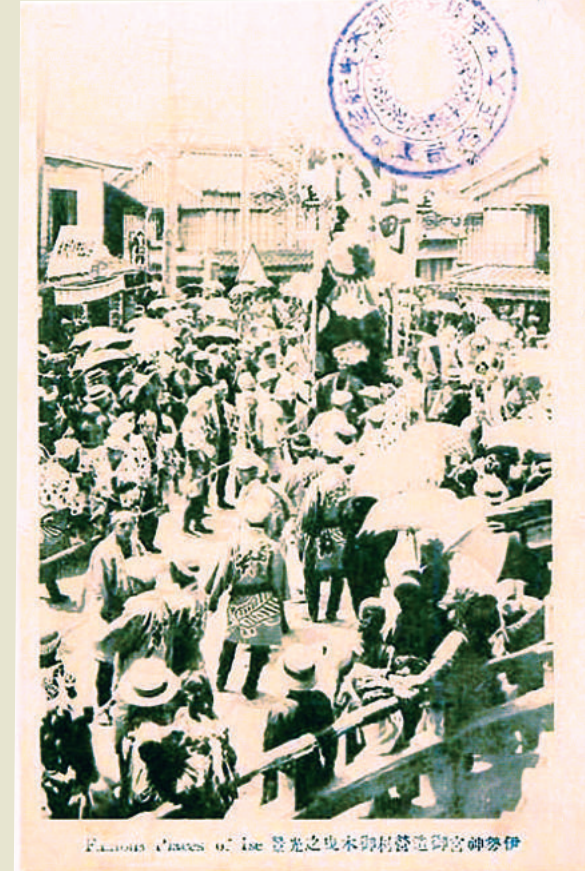
新しい時代へ伝統をつなぐ

平成に感謝して内宮参拝

いよいよ天皇陛下ご譲位に伴う、御代替わりの新年を迎えます。
今上天皇最後の新嘗祭の日に平成の御代に感謝する特別行事を開催。
伊勢の民俗行事、伝統文化を新時代へつなぐ一歩となりました。



20年後に右の絵葉書の元写真を彩色して広報に使用された



大正時代の陸曳(絵葉書から)

大正時代のお木曳

明治維新以降、神宮にも大きな変革がありました。神領制度が廃止され、御造営や物流などの近代化もあつて、御遷宮のために必要なご用材を搬入する神領民の労役奉仕であった「お木曳」は現代に継統されるような民俗行事としての意味合いが強くなりました。神宮のお膝元で生きてきた旧神領民としての誠意、神宮への昔に変わらぬ思いが強く、古来の慣例に則りご用材奉曳を行いたいと申し入れ、ご用材の配分や日程、方針、実施要綱などが細かに調整されるようになったと記録されています。

大正時代には、第五十八回式年遷宮にかかわるお木曳を実施。この頃には写真撮影もされるようになり、絵葉書などに印刷されたものが残っていて当時の様子が伺えます。
二十年ごとの行事ですから、社会情勢に応じて変わらざるをえないことはありますが、伊勢の民の「お木曳」は、時代を超えて奉曳車の形や装飾、ご用材の荷積み、木遣り唄など、各町(団)それぞれの歴史が継承されています。

天皇陛下のご譲位・ご即位
●キーワード
新嘗祭と大嘗祭

現在「勤労感謝の日」とされている11月23日は「新嘗祭」。天皇陛下が一年を通して宮中で行われる中でも特に重要とされているという祭祀で、その年の新穀(お米)に感謝して神饌を捧げ、神様と共に召しあがられます。

平成31年、いよいよご譲位により今上陛下のご退位、5月1日に新天皇陛下即位式が行われ新元号となりますが、その後即位された最初の新嘗祭を「大嘗祭」として、皇居内に造営された大嘗宮にて大祭が行われます。これが天皇陛下の実質的な最初の大祭となります。天皇陛下が126代となる日本は建国以来、こうして稲作を中心とした日本の国づくりを象徴する祭祀が絶えることなく続けられます。
大嘗祭を行われた後、天皇皇后両陛下は、神宮、京都御陵へご奉告される「ご親謁の儀」のため行幸啓をされることが明治以降の慣例となつています。
元年となる年、伊勢はこれまで以上に、奉祝に湧く一年となるのではないのでしょうか。